

<白金標準、8700 円以下は短時間の自立反発に注意・・・>



(出所：オアシス)

雇用統計の発表で非農業部門雇用者数が 17.2 万人増となり、失業率も 4.3%となるなどホルムズ海峡の閉鎖が続く原油高を受けても、米国経済のファンダメンタルズは好調の中にあり、ハマック・クリーブランド連銀総裁は雇用統計を受け「米国の労働市場は完全雇用に近い状態にある」と述べ、「FRB は近く利上げを実施する必要に迫られる可能性がある」と述べるなど、6 月の FOMC で利上げ観測の思惑が高まっている。そのため白金標準先物は、雇用統計までは 9656 円で推移していたが、発表後には 8994 円まで下値を試している。またイランがイスラエルへミサイル攻撃を行い、イスラエルも報復攻撃を実施するなど、雇用統計と中東情勢を受けた 10 年債金利が 4.580%まで上昇すると、週明けには 8775 円まで下値を模索している。特に今年 2 回、白金標準先物は 2 月に 8662 円、3 月にも 8478 円まで下値を模索しているが、2 月は 11265 円、3 月も 9946 円まで短時間（2 日～3 日）で戻りを見せるなど根本的な需給要因が供給不足を示しており、外的要因で一方向的に売り込まれた価格は、自律反発を見せる値動きを強めている。特に雇用統計は米国経済のファンダメンタルズは依然として強いと主張しており、一時的な売り込みの価格に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げながら、**シグナル** は切り下げている。RCI では**短期**が下げながら、**長期**は下げている。特に日足と指数平滑移動平均線から乖離しており、短時間の 9200 円に向けた自律反発に注意が必要に思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,370,000 円(2026 年 6 月 8 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2026 年 6 月 8 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>